大草谷津田いきものの里 観察会

カエルぴょこぴょこ何種類？

小川洋子（八千代市）

日　時：2023 年 6 月 18 日（日）10:30～12:00　　天候：曇り
参加者：20 名（大人 9 名　子ども 11 名）
担当指導員：木下　芳我　小川　参加指導員：1 名（岡田）

観察会当日の予報は曇りだったが、担当者には頭が痛いことがあった。下見の折道に大きな落枝、続いて道を塞ぐ倒木を発見、市に連絡、これで大丈夫だと思っていたら市から倒木は片づけたが新たなかかり木が見つかり道を一部通行止めにしたと連絡があった。カエルの田んぼに行くには大きく迂回をしなければならない。しかも坂を上り急な階段を下るのだ。参加者は小学校低学年と幼児とその保護者、果たして田んぼまで無事着けるか不安を抱えながらの観察会スタートだ。

そんな心配をよそに子供たちは元気いっぱい、次々に虫を見つける。オオカマキリやハラビロカマキリ、ショウリョウバッタの幼虫、地面にはオオヒラタシデムシの幼虫も。ゴホントゲザトウムシも子どもたちには人気だ。先は長いのに前にはなかなか進まない。

めじろんばからは坂道を上る。ここではベニシジミ、ムラサキシジミ、ハグロトンボなどを観察、翅にノシメ斑がついた小ぶりのトンボはコノシメトンボのようだ。下ノ畑は平坦な台地だがここでアズマヒキガエルやニホンアカガエルの子ガエルがいくつか見つかった。水辺の田んぼははるか下、「こんな所にカエルがいるの？」と子供たちは驚きの表情だ。カエルはオタマジャクシの頃はえら呼吸で水中でしか生きられない。カエルになると肺呼吸になり陸で生きることも可能になるのだ。見つかったカエルたちを見比べてみるとヒキガエルは黒いがアカガエルは茶色で鼻先がとがっている。アカガエルはイケメンね、と保護者の声。子供がササについた大きな毛虫を見つけた。タケカレハの幼虫だ。幼虫にも繭にも毒があるタケカレハ、野外で覚えておきたい危険生物だ。

急な階段を下るとやっと田んぼに到着。子供たちは我先にと田んぼに走る。田んぼの畔や草むらでニホンアマガエル、ニホンアカガエル、アズマヒキガエルの子ガエルたちが次々捕まる。アマガエルにはまだ尾の名残が残る個体もあった。田んぼに網を入れるとたくさんのオタマジャクシが捕れた。後ろ足が出ているのもちらほら。これは何のオタマジャクシだろう？

水辺が好きなのはカエルだけではない、トンボも飛んでいる。シオカラトンボかな。ブルーのきれいな大きめのはオオシオカラトンボだ。一際細身のトンボはオオアオイトトンボ、ヤゴもたくさん捕まえた。小さなドジョウも数匹。田んぼは生き物の宝庫だ。

この日のテーマは「カエルぴょこぴょこ何種類？」だ。スタート前写真を見せながら大草で見られるカエルは4種類だと説明したが、さて何種類見られただろうか？ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、ニホンアマガエルはしっかり確認した。さてシュレーゲルアオガエルはどうだろう？緑色の子ガエルの中に少々他と異なるカエルがいた。シュレーゲルアオガエルかも、ということでひとまず4種類コンプリートしたことに。子供たちから歓声が上がった。

長い迂回路を通り入口広場に戻る。参加者に感想を尋ねたら一斉に「楽しかった！」と子供たちの声。始める前の心配は杞憂に終わり、無事観察会を終えることができ担当者一同胸をなでおろした。